

KSK湘南ふくしネットワーク オンブズマン



編集責任者：NPO 法人湘南ふくしネットワークオンブズマン 高山直樹
 事務局 〒251-0871 神奈川県藤沢市善行 4-3742-4 電話・FAX 0466-81-9218
 直通電話 090 4937 4904 定価 100 円
 ホームページ <http://www.npo-snet.com> eメール info@npo-snet.com

2004年度(第4回)NPO法人総会報告

特定非営利活動法人 湘南ふくしネットワークオンブズマンでは、2004年6月19日(土曜日)茅ヶ崎市民文化会館にて、第4回通常総会を開催いたしました。

正会員20名のうち18名の出席により、全ての議題を原案通り可決し、無事終了したことをご報告申し上げます。

Sネットオンブズマンの活動について

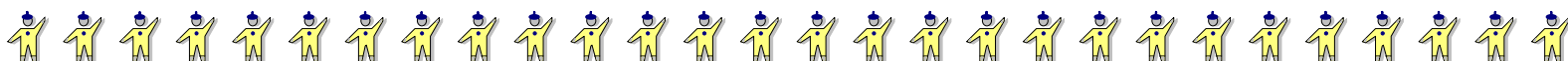
前身である「湘南ふくしネットワーク」のオンブズマン委員会から8年、NPO法人格を取得しての活動を始めて3年が経ちました。基本である「毎月一回以上、複数の担当オンブズマンによる施設訪問をし、利用者の声を聴き、代弁をする」活動を重ね、新たに成年後見制度における法人後見や後見監督人なども始めています。また、市民の方々にオンブズマンの役割を担っていただくために「オンブズマン養成基礎研修講座」も開催してまいりました。

しかしながら、活動を重ねても「利用者の方々の声の実現に応えられない厚い壁」に直面し、昨年度の後半、今後の活動についてのあり方を見直す議論を重ねました。第三者委員ではなく、私たちは「利用者の立場に徹底的に立つオンブズマンである」という意識をさらに強め、「脱施設＝地域生活支援」に向けて、私たちの役割を果たしていかなければならないという確認をしました。

途絶えていた、ネットワークの相棒である施設団体「Sネット21」との定例ネットワーク会議も復活し、利用者本位の協働型が発揮できればと思います。皆様の更なるご支援とご協力をお願いいたします。

2004年度 S-NET 理事・監事名簿

氏名	役職	担当
高山 直樹	理事長	オンブズマン
小川 泰子	副理事長	Sネット21
藤本 直也	副理事長	オンブズマン
増藤 純	理事	地域生活支援
稲木 俊夫	理事	Sネット21
高橋 健一	理事	Sネット21
千木良 正	理事	eネット
増田 逸朗	理事	Yネット
牧野 賢一	理事	地域生活支援
大石 剛一郎	理事	オンブズマン
相川 裕	理事	オンブズマン
山下 和男	理事	オンブズマン
江崎 康子	理事	オンブズマン
永峯 千尋	理事	オンブズマン
薩摩 章子	理事	オンブズマン
田添 正寿	監事	税理士



オンブズマン名簿

氏名	所属など
高山 直樹	大学教授(藤沢市)
大石 剛一郎	弁護士
相川 裕	弁護士
水野 翔子	福祉専門学校教員
粟谷 弘海	福祉専門学校教員
山下 和男	司法書士(横須賀市)
江崎 康子	市民(藤沢市)
塚越 博	市民(鎌倉市)
西山 正子	市民(茅ヶ崎市)
福本 亮	市民(鎌倉市)
藤本 直也	社会福祉士(鎌倉市)
川越 智子	福祉系フリーライター
佐川 美智子	市民(茅ヶ崎市)
永峯 千尋	市民(茅ヶ崎市)
岡崎 清子	財団法人職員(茅ヶ崎市)
岡崎 浩之	財団法人職員(茅ヶ崎市)
薩摩 章子	社会福祉士(茅ヶ崎市)
三谷 智百合	社会福祉士・保育士(藤沢市)
市川 悠紀子	市民(茅ヶ崎市在住)
渡辺 岳	高校教諭・社会福祉士

2004年度オンブズマン利用契約施設

施設名	人数	種別
湘南鬼瓦	40	知的障害者通所更生施設
サービス湘南鬼瓦	18	障害者サービス
ブルーベリー	6	通所更生施設分場
グリーングラス	17	入所更生施設分場
入道雲	50	知的障害者入所更生施設
水平線	50	身体障害者療護施設
つくしの家	20	障害者地域作業所
活動センター・いずみ	20	障害者地域活動センター
光	18	高齢者サービス
萩園ケアセンター	18	高齢者サービス
STUDIO UZU	10	知的障害者小規模通所授産
小和田ケアセンター	7	高齢者サービス
もやい	70	知的障害者通所更生施設
カトリアホーム	50	特別養護老人ホーム
軽費鎌倉静養館	65	軽費老人ホーム
特養鎌倉静養館	50	特別養護老人ホーム
ラポール藤沢	70	特別養護老人ホーム
工房ひしめき	60	知的障害者通所授産施設
ふれあいの森	70	特別養護老人ホーム
わたげ	32	知的障害者通所更生施設
養護老人ホーム湘風園	100	養護老人ホーム
あすなる学苑	29	知的障害者通所授産施設

時の話題

障害者差別、条例で禁止

24時間対応へ 千葉県、全国で初

千葉県の筆本睦子知事は、障害者差別を禁止する全国初の条例を制定する意向を固めた。10月には、「中核地域生活支援センター」を新設し、24時間態勢で相談を受けて権利侵害を救済する態勢を整える。障害者の家族も交えて1年間協議したうえで、県議会に条例案を提案する見通しだ。罰則などは設けない方向だが、実効性を担保するのが、「支援センター」での相談受け付け。民間に委託する形で県内14カ所に設ける。1カ所に数人が配置され、福祉サービスへの利用や権利侵害について、障害者からの相談を電話などで24時間受け付ける。トラブルの現場に出かけて、相手方の説得にあたるという。

条例制定の背景には、後を絶たない差別事例がある。同県や障害者団体は、知的障害者がマイミニングクラブの会員になろうとして断られたり、ホテル利用を拒まれたりした例を把握している。筆本知事は条例のほか、入所施設から知的障害者を地域に戻す施策も考えられていると話している。障害者への差別を禁止する法律は世界40カ国以上が整備している。日本では前国会で障害者基本法が改正され、差別禁止が盛り込まれたが、「理念法」であり実効性に限界がある。この批判がある。国連は01年、日本に「障害者に関するあらゆる差別を禁止する法律を制定する」よう勧告。障害者団体などは差別禁止法制定を求めている。

「禁止法」へ道
日本障害者協議会の藤井克徳常務理事の話。障害者差別禁止法への道を開くものとして意義は大きい。罰則も具体的な救済・監視規定などの論議を見守りたい。

進め方に注目

厚生労働省の塩田幸雄 障害保健福祉部長の話。今後も差別禁止法について検討したが、他の法律との整合性を難しい点がある。千葉の進め方に期待し注目している。

朝日新聞 2004年7月8日(木)朝刊



施設、グループホーム

増藤 純 (Sネット 新理事)

施設には門限がありますが、グループホームは門限がありません。

施設は日記を書いたりしますが、グループホームでは日記を書いたりしません。

施設は、食べる時間が決まっていますが、グループホームは食事の時間がばらばらです。

施設は、消灯時間が決まっていますが、グループホームは消灯時間が決まっています。

施設は、勉強がありますが、グループホームは勉強がありません。

施設は週でお風呂に入りますが、グループホームに入居している人は毎日入っています。

施設に入居している人は例えば外出の時先生に断りますが、グループホームに入居している人は職員にことわりません。夜、遅い時は電話をしたりしてます。

自分の考えは施設に入居している人は作業や訓練、例えば言葉がしゃべれない人は言語の訓練に行きますが、グループホームに入居している人は会社に通勤しています。

最後に、施設に入居されている人は家賃を払わないし、グループホームに入っている人は家賃を払います。

風景にしないで！

永峯千尋(オンブズマン)

幼い頃「何事かを願うとき、ずっと言い続けていたり、思い続けていると叶うんだよ」そんなふうに父に言われたことがあったような気がする。

でも、最近施設に行ってお話をうかがっていると「それはちがうんだ」と思うようになった。

いつもいつも会うたびに「お母さんに会いたい」と訴えるAさん。

「お刺身が食べたい」と言い続けるBさん。

「便利なところで暮らしたい」と言うCさん。

「周りの人のいっていることが良くわからない」と訴えるDさん。

「仕事がつまらない」と言うEさん。

言い続けているのに、言い続けていると、それは、一つのその人の「風景」になってしまっ、みんなのここから離れてしまうんだね。

本当は心からの叫びなのに。

どうしてなんだろう？

「いつもそんなこといってるんですよ」と、周りの人は簡単にそう言うけれど。

そうなのかな？

みんなの声が固い石になって、風景の中に収まってしまいう前に、オンブズマンはなんとかしなくちゃ。

こっちが石ころの中に埋まってしまいうことにならないように。

オンブズマン紹介：

岡崎浩之さん

私は、高齢者デイケア、特別養護老人ホーム、知的障害者通所授産施設の勤務を経て、茅ヶ崎市内の公益法人に勤めるものです。

オンブズマンの活動に出会ったのは、知的障害者通所授産施設に勤めていた頃で、生活や将来にかかわる権利擁護に対して意義ある活動だなと思っていました。

その後、公益法人に移ってから、オンブズマン養成研修講座を受け、福祉施設職員の経験を活かしてのオンブズマン活動ができないうると思うようになりました。

オンブズマンになってから思うことは、なるべく多くの施設利用者が相談をできる意識が持てると良いのになと思うことです。

権利を主張するといった大げさなことでなく、相手に自分の気持ちを伝える、困ったことを解決するための手段を知る。行動すると言ったことができる施設利用者はまだまだ少数のようです。

「他人からしてもらおう」から「自分からしてもらおう」ようになる事で、少しでも自己表現・自己実現へ進み、それぞれが「こうしたい」「こうあったら良い」と思える環境を作ることが、権利擁護の入り口ではないかと思えます。

なので、私はオンブズマンというよりもまるで「お話ボランティア」のような現状です。(汗)



新人オンブズマン紹介

市川悠紀子さん

1963年、東京から移り住み茅ヶ崎の住民になり40年がたちました。

今まで何もしないただの主婦でしたが、茅ヶ崎の事も知らないのに気付き、今までに「見ていなかったもの」、「又見てこなかったもの」を見たい意欲にかられ、市民活動サポートセンターの管理運営委員会の一員となり3年目になります。

週に3日窓口業務を担当し、ご利用者にサービスを提供しています。

福祉は解らない事ばかりですが勉強しながら、何か私なりのお手伝いが出来ればと思っています。

渡辺岳さん

高校生達を相手に福祉体験学習のコーディネートを行って、いつの間にか15年が経過しました。その間に福祉の構造改革が進み、施設の状況も大きく様変わりを始めています。その過渡期とも云える時期に、生徒達と一緒に特養ホーム・障害者授産更正施設・障害児療護施設・ホスピスなど様々な施設で体験実習を行い、福祉施設が変わり行く様相を垣間見てきたつもりで居ります。毎年、生徒達が記した体験記を文集にまとめ、1000通以上のレポートを収集しました。高校生の目から見た施設の実態はなかなかリアルで本質を突いています。それは私自身が福祉を学ぶ上でも大きな財産になっています。

本業は数学の教員ですが、故あって30歳を過ぎた頃から障害児教育について自己流の勉学を始め、40歳になった年から当時の在任校で高校生を対象に福祉体験学習を手がけるようになりました。50歳を過ぎてから社会福祉士を取り、現在は高等学校の現場で地域協働型の福祉教育をカリキュラムの中に導入しようと画策しておりますが、うまくいくかどうか？結果が出るのは少し先の話です。定年退職までに目鼻を付けられればよいと考えております。

オンブズマンとしての活動を始めたのは、これまでとは違った角度から施設の在り方を考えていく必要を感じたからです。職業柄、いつも審判的鷹揚な態度で生徒達に接し、施設に行っても何処かそんな体臭を振りかざしていたような気もいたします。これからは施設を利用する方々の権利を護ると云う立場を何処まで堅持できるか、私自身に与えられた課題だと感じております。

「誰もがよりよい人生を生きる事を望んでいる。そのために、いま私達は何をしたらよいか？」そんな事をいつも自問自答しながらオンブズマンの活動を続けていきたいと考えております。宜しくお願いいたします。

オンブズマン養成基礎研修講座
是非！ご参加ください。
チラシをご参照ください

賛助会員入会のお願い

私たち「湘南ふくしネットワークオンブズマン」は、施設や地域において福祉サービスを利用または必要とする人たち(以下「利用者」という)の権利を守り、その人が決めたその人らしい暮らしを実現するために活動しています。そして、よりいっそう利用者の側に立った活動ができるようにと、2001年5月に特定非営利活動法人(NPO)の認証を受けました。私たちは、利用者の意見に耳を傾け、そこにある問題の解決に知恵を出し合い、全力で取り組みます。私たちは利用者の方の力になり、ノーマライゼーション社会を実現したいと思っています。そのためには、地域の方たちの協力が必要です。私たちの活動をご理解くださり、ご支援くださる方には、賛助会員としてご入会くださるようお願い申し上げます。

賛助会員会費

- ・地域のみなさま 年額 一口 1,000円 (一口以上)
- ・法人のみなさま 年額 一口 5,000円 (一口以上)

*ご入会いただきました方には、会報などをお送りする他、セミナー・研修会などの割引特典があります。

ご入会の方法 : 郵便振替書により下記口座へ会費をお振込みください

郵便振替口座番号 00210-9-75496
口座名義人 NPO法人 Sネットオンブズマン

